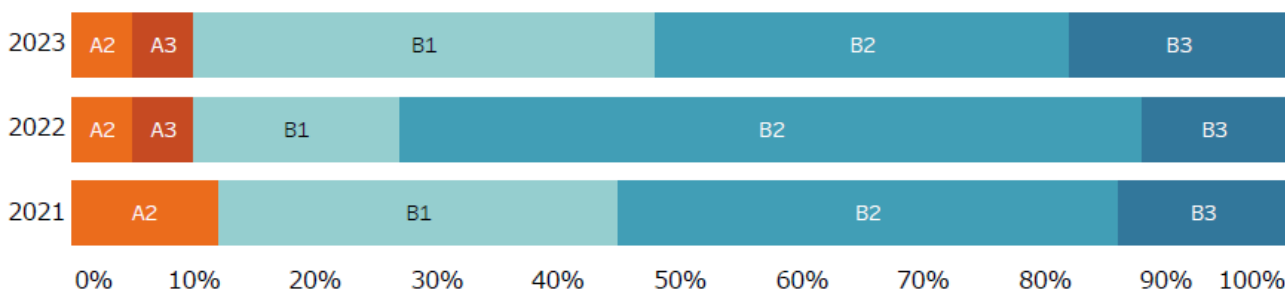


2023年 フェリス女学院 算数

過去3年の思考コード別出題割合は次のようになります。大問5題構成は変わっていませんが、2022年と比べると、B1の問題が大幅に増え、取り組みやすい印象を受けました。しかしながら、大問1の一行題は、豊島岡女子で出題される一行題のように、手間がかかる問題も見られます。そのため、取り組む優先順位を適切に判断する必要があります。平面図形、数に関する問題、調べる問題など、頻出分野があるため、過去問の活用は大変有効です。



大問1は、例年通り計算、一行題の構成でした。(2)の「空きびんの交換」は、今年の浦和明の星でも出題されていました。テキストで見る典型的な問題となるため、得点しておきたいです。(3)も数の差に注目する典型的な問題です。(4)で手が止まった受験生が多かったと思います。(1)は、得点しておきたい問題です。(2)はサイコロの目が「 $8 = 2 \times 2 \times 2$ 」となる点に注目して、「 $\times 2$ 」がふくまれる数を調べます。ここは後回しにしてもよいと思います。「8の倍数」が問われていましたが、「倍数判定法」については、キッチリ確認しておく必要があります。(5)は、条件を整理して逆比を利用する問題でした。落ち着いて得点しておきたいです。大問2は、つるかめ算を利用する問題でした。単位当たりの量が、「ガソリン1Lあたりで走ることができる距離(10km、12km)」なのか、「1時間あたりに進む距離(時速40km、時速80km)」なのかに注意します。ここも得点しておきたい問題です。大問3は、フェリス頻出の平面図形でした。(1)は、確実に得点しておきたい問題です。(2)は、「正三角形の半分」を利用する問題でした。知識として持つてはいても気づけなかった受験生も多かったと思います。角DOAが30度となることに注目して、DからAOに垂線を引くことがポイントでした。

大問4は、場合分けして調べる問題でした。B2、B3レベルの問題となり、かなりハードルが高い問題だと思います。(1)は「5人中2人を選ぶ」ので、次に(3)の「5人中3人を選ぶ」に取り組み、最後に(2)の「5人中4人を選ぶ」に取り組むと、求めた手がかりを順に活用することができます。実際の試験では、(2)、(3)を後回しにしてもよいと思います。大問5は、ルールの通りに調べる問題でした。(1)は、確実に得点しておきたい問題です。(2)①、②で調べたことを③、④で活用する流れとなっています。調べると、1の個数として考えられる場合・考えられない場合が見つかります。(2)②までは得点しておきたいです。

例年通り、大問5題構成でした。2022年はB2中心のハードな問題が並んでいましたが、今年は、少しハードルが下がった印象を受けました。手間のかかる問題も見られるため、問題の取舍選択を適切に判断する必要があります。あくまでも予想ですが、大問1(4)イ、大問4(2)(3)、大問5(2)③④を落としたとしても、およそ7割程度には達することができると思われれます。